

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し

入学定員については、令和6年度に15名増員し、全体の入学定員を110人（令和4年度から令和5年度までの増員措置（令和4年10月認可）の継続。）とする。

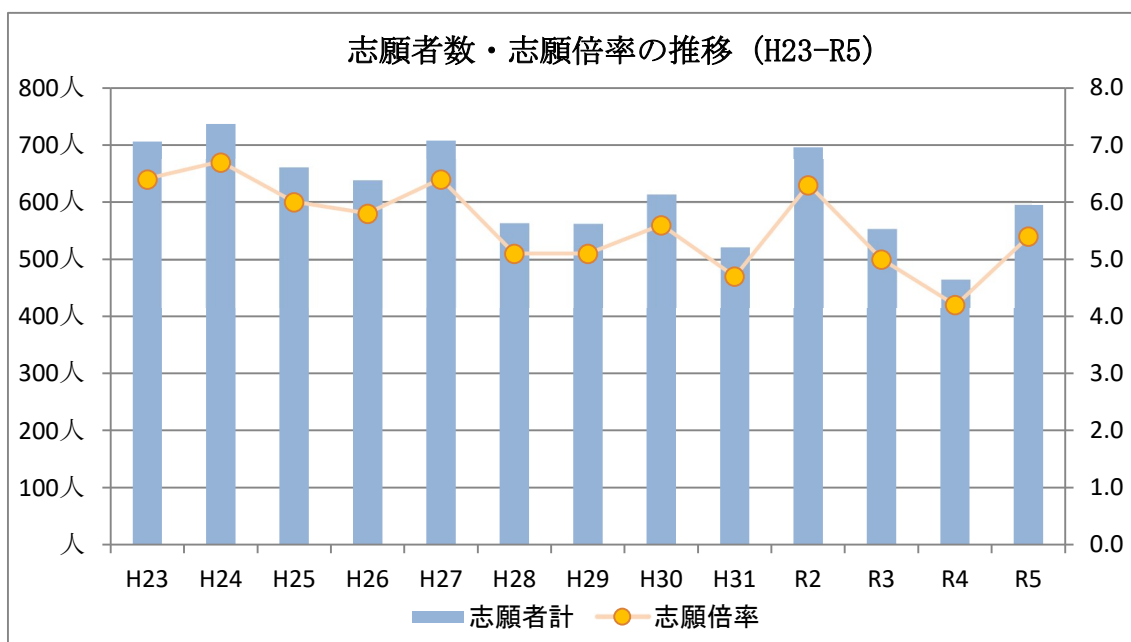
(1) 定員充足の見込み

① 医学部医学科全体の志願実績等から見た入学見込み

医学部医学科では、平成21年度以降の収容定員変更計画の認可の結果、平成23年度から令和5年度までの間、今回の申請が認められた場合と同様に、15名の入学定員を増員し、入学者選抜を実施してきた。

平成23年度から令和5年度までの間の医学部医学科の志願者数・志願倍率等は下記の通り推移している。

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
志願者数	AO入試Ⅰ (H23-R2) 総合型選抜Ⅰ (R3)	172	192	211	222	208	202	195	195	196	225	192	167	178
	推薦入試Ⅱ (H23-R2) 学校推薦型選 抜Ⅱ(R3)	68	60	84	70	69	70	75	85	61	71	67	60	67
	一般選抜 (前期)	466	485	365	346	431	291	292	333	264	400	294	238	350
志願者計		706	737	660	638	708	563	562	613	521	696	553	465	595
入学定員		110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110
志願倍率		6.4	6.7	6.0	5.8	6.4	5.1	5.1	5.6	4.7	6.3	5.1	4.2	5.4

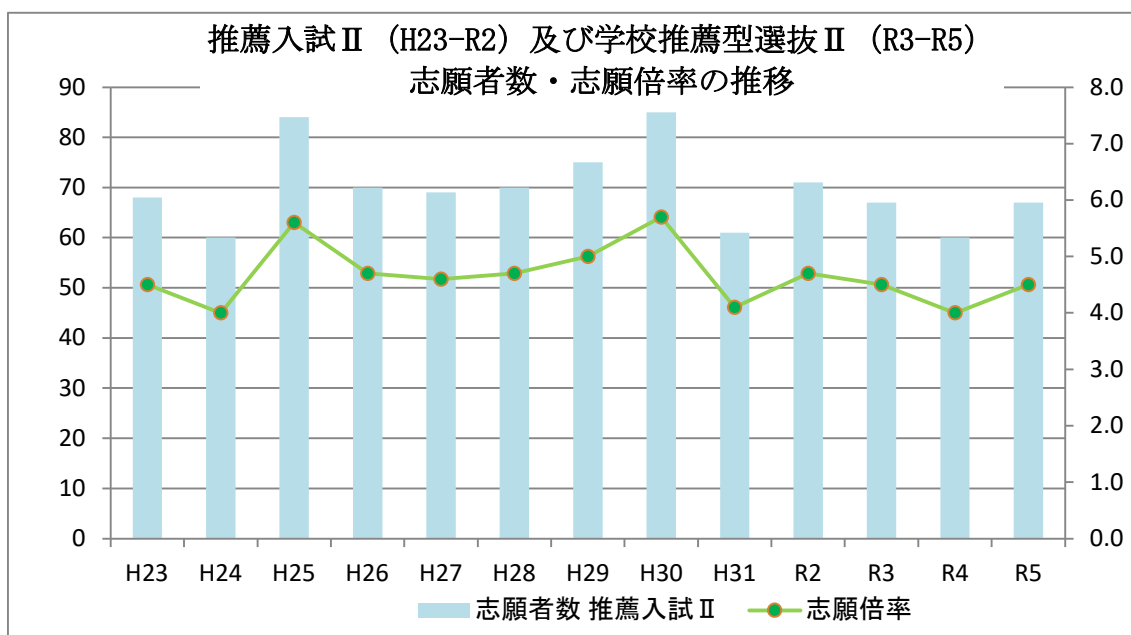


② 地域枠の志願実績等から見た入学見込み

医学部医学科では、令和2年度以前の推薦入試Ⅱ及び令和3年度以降の学校推薦型選抜Ⅱの入学定員15人について、「高知県内の地域医療に従事する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することを確約できる者」及び「入学した場合は、「高知県医師養成奨学貸付金」を6年間受給することを確約できる者」等の要件を定めた上で、入学者選抜を実施してきた。

今回入学定員の増員を申請する15人についても、この学校推薦型選抜Ⅱによる入学者選抜を予定しており、高知県からも「高知県医師養成奨学貸付金」の措置が約束されている。

この推薦入試Ⅱ及び学校推薦型選抜Ⅱに関し、志願者数・志願倍率等は下記の通り推移しており、募集人員を15人増員し20人として入学者選抜を実施した場合においても、充足するに足る志願者を得ることが可能と考えられる。



以上の①②のとおり、本学の医学部医学科において、入学定員を15人増員し、入学定員全体110人及び推薦入試Ⅱ・学校推薦型選抜Ⅱ20人とした場合にも、過去の志願状況（志願倍率：入学定員全体（平成23年度以降110人）4.7倍から6.7倍、推薦入試Ⅱ・学校推薦型選抜Ⅱ（15人）4.0倍から5.7倍で推移）から、「入学者の質」を十分に担保することができる入学者選抜を実施した上で、入学定員を十分充足できる見込みがあると考えられる。

（2）学生確保に向けた具体的な取組

医学部医学科の目的や育成する人材像、教育課程の特色などをPRするためのポスターやパンフレットを作成し積極的に配布すると共に、進学説明会や相談会などを開催するなどの広報活動を行う。

① 進学ガイダンス等

アドミッションセンターの教員を中心として、四国、中国、九州、近畿地方などの西日本を中心とした高等学校を訪問し、進路指導担当教員との情報交換、意見交換を行う。また、出前授業や公開講座を通じて、大学の教育内容、研究内容と将来活躍できる社会分野に関する情報提供を一層活発化させる。

② 進学説明会・オープンキャンパス

アドミッションセンターを中心に一年を通じて全国で開催される進学説明会への情報提供を積極的に行っており、関西・中四国地区の進学説明会に対して教員を相談員として派遣するなどの活動を行っている。また、7月上旬の高知大学での進学担当者説明会のみならず、岡山県内、徳島県内での進学担当者説明会に参加して、中四国地区の高等学校に属する進学担当教員に対する情報提供を行うと共に、学部紹介冊子の作製や

学部 HP の充実を図ってきた。さらに、8月のオープンキャンパス、11月のホームカミングデーなど、様々な学内イベントの機会を通じて、教員、生徒、保護者らとの交流を通し情報公開に努めてきた。

③ 願書頒布会

大学入試センター実施直後には一般選抜の受験生を対象にして、高知の他、名古屋、大阪、岡山、福岡で入試願書の配布会と面談による大学情報の提供を行ってきた。今後も受験生の志願状況や出身地別による志願者の変化などを踏まえ、広報活動を行う地域、地区、学校の選択や重点化を図る。

④ インターネット出願の導入

四国地区5つの国立大学では、平成28年度一般入試（前期・後期）からインターネット出願の導入を行っており、願書の取り寄せ不要、チェック機能により書類ミスの防止、24時間出願データ送信可能、本人写真が不要、願書の受付状況がインターネットで確認できるなど多数のメリットがある。また検定料がクレジットカード、コンビニエンスストア、銀行ATMで支払え、支払い手数料を無料とした。

（3）学生納付金の設定の考え方

本学の納付金は、授業料年額 535,800 円で「国立大学等の授業料その他費用に関する省令」第二条に定める標準額と同額、かつ近隣の国立大学法人と同額である。

2 卒業後の進路と就業実績

医学部医学科では、平成 21 年度入学生から入学定員 95 人にするとともに、「緊急医師確保対策」として入学定員を 15 人増員（平成 21 年度から平成 29 年度 5 人、平成 22 年度から平成 31 年度 7 人、平成 23 年度から平成 31 年度 3 人、平成 30 年度から平成 31 年度 5 人、令和 2 年度から令和 5 年度 15 人）し、学士課程教育を行っている。

卒業後の進路と就業実績に関し、平成 21 年度入学生の卒業年である平成 26 年度卒業生以降の「医師国家試験合格率（新卒分）」及び「高知県内への就職を含めた卒業後の進路」について分析を行う。

（1）新規卒業生の医師国家試験合格率の推移

卒業年度 (入学定員)	卒業生数	受験者数 (新卒)	合格者数 (新卒)	合格率 (新卒)
平成 25 年度 (増員前：90 人)	101	99	89	89.9 %
平成 26 年度 (100 人)	100	100	94	94.0 %
平成 27 年度 (107 人)	109	109	102	93.6 %
平成 28 年度 (110 人)	115	114	107	93.9 %
平成 29 年度 (110 人)	104	104	99	95.2 %
平成 30 年度 (110 人)	112	112	105	93.8 %
令和元年度 (110 人)	102	101	96	95.0 %
令和 2 年度 (110 人)	125	125	118	94.4 %
令和 3 年度 (110 人)	109	109	102	93.6 %
令和 4 年度 (110 人)	124	124	121	97.6 %

上記のように、平成 25 年度卒業生以降の「医師国家試験合格率（新卒分）」は 89.9% から 97.6% の間で推移しており、「卒業試験の改革」、「学内に医師養成強化対策チームを組織し、医師国家試験に対する各種対策（模擬試験の受験の必須化等）を企画・実施」、「これらの対策を実施する上での同窓会や後援会からの援助」など、さらなる合格率向上に向けた取り組みを行っている。

(2) 卒業後の進路・就業先の分析

卒業年度 (入学定員)	卒業生数	高知県内 就職者	高知県外 就職者	その他 (再受験等)	高知県内 就職率
平成 25 年度 (増員前：90 人)	101	36	52	13	35.6 %
平成 26 年度 (100 人)	100	42	52	6	42.0 %
平成 27 年度 (107 人)	109	48	54	7	44.0 %
平成 28 年度 (110 人)	115	48	59	8	41.7 %
平成 29 年度 (110 人)	104	35	64	5	33.7 %
平成 30 年度 (110 人)	112	43	62	7	38.4 %
令和元年度 (110 人)	102	41	55	6	40.2 %
令和 2 年度 (110 人)	125	53	65	7	42.4 %
令和 3 年度 (110 人)	109	48	54	7	44.0 %
令和 4 年度 (110 人)	124	54	67	3	43.5 %

上記のように、平成 25 年度以降、卒業後の高知県への就職者は、4 割程度で推移している。

以上のとおり、入学定員を 15 名増員して 110 人とし地域の医療を担う医師の確保を進めていくという「医学部収容定員増の趣旨等」を達成するための実績については、近年の高知県内への就職者数の増等から説明することが可能であると考えられ、今後「地域医療への関心と意欲を高めるためのカリキュラムの充実」、「高知県内における卒後臨床研修体制の充実」、「高知県医師養成奨学貸付金受給者への支援の充実」、「高知県内における専門研修体制の充実」などの取り組みを通じて、さらなる高知県内への就職増に取り組んでいくことを予定している。